

扶桑昔廟最初

防府天満宮

佐加太利とは御鎮座地天神山の古来名「酒垂山」からとったものです

佐加太利

令和4年
春夏号

109号

目次

1 点描／若梅

2 巻頭言

3 崇敬会だより

こころのふるさと

防府天満宮

その心は天神講から

崇敬会へ受け継がれ

7・6 防府天満宮末社の神々

合祀の変遷

8 「兄弟わっしょい」

防府の未来を目指して

宮司インタビュー／新会頭に聞く

TOPICS

結婚おめでとう

ひたぶる

天とて屋かふえリニユール

社務所だより

天神様の冬から春／日誌抄

12 これからの祭事行事案内



天神様とのご縁を大切に

宮司 鈴木宏明


以前、周防大島にある神社の宮司さんが「私にはお世話をしている天神様がおります。その天神様には『菅公西下の途次、島を通りかかった折時化に遭われたが、入り江でお休みになり難を逃れられた』という伝承があり、地域の人達が管理している小さなお社なんです。お祭となるとそれはそれは出し物も多く、賑わいのある村祭りになるんです」とにこやかに話になっておられました。

その宮司さんと久しぶりにお会いする機会があり「その後あの天神様のお祭は益々盛んですか」とお尋ねしたところ「あのお祭は四年に一度お休みするという習わしでしたが、コロナの影響もあり今では逆に四年に一度しか行なえない状況になってしまいました。皆さん伝統を絶やしてはいけないという気持ちだけはあります」と嘆いておられました。

今日では多くの神社で祭りの担い手が減り祭りの維持さえ困難になってきましたが、全国津々浦々に至る天神信仰の高まりは古く、人形浄瑠璃や歌舞伎に「菅原伝授手習鑑」が演目に登場するようになる江戸時代中期に遡ります。防府天満宮でも文化文政の時代に、防長二州をはじめ石州や芸州を中心に参百以上の「天神講」という防府天満宮を崇敬する地縁組織（講社）が誕生しました。これらの講社では毎月代表者が防府天満宮へ参拝しお札を受けて帰りました。そして講社自体が集落の寄り合いでもありましたので情報交換や懇親の場として大切な役割を果たしていました。しかしその「天神講」も近年は村祭り同様に衰退し、天神様と地域、地域と人々の縁も薄くなつてしまったといわざるを得ません。

このような中、防府天満宮では平成十四年御神忌千百年式年大祭を記念して「天神講」に代わり、天神様との新しい形の御縁を戴くため「防府天満宮崇敬会」を設立致しました。お蔭様で多くの方々にご入会頂いておりますが、令和九年に斎行される千百二十五年式年大祭を五年後に控え、更に多くの方々へ天神様とのご縁を取り結ぶため、今秋「防府天満宮崇敬会東京支部」を設立する運びとなりました。

現在コロナ禍や悲惨な戦争の勃発と内憂外患心の痛む世ではありますが、私たちは天神信仰の輪を広げ、天神様の心を心とし、皆様方と共に天下泰平を祈ることが防府天満宮の使命だと考えております。

※本ページの天地に掲載した（重文）松崎天神縁起絵巻は、全六巻計約75メートルにおよびます。本号ではその  の部分を紹介しています。

崇敬会だより

第二十一回崇敬会大祭

去る五月三日、コロナ禍の中、十分な対策を講じながら第二十一回崇敬会大祭を斎行しました。福田百合子会長以下二十三名の参列ではありましたが、三年振りに和やかに皆様のお顔を拝見でき、天神様もさぞご安心の事と拝察申し上げます。総会では宮司より今秋に崇敬会東京支部が新たに設立される旨の報告がありました。直会では参加者の近況報告をしながら交流し、久々に会員相互の親睦を深め本年の大祭を無事盛大に終えました。

来たる令和九年には御神忌一二五周年式年大祭を迎えます。是非ともご近所やお知り合いに入会をお勧め頂き、天神様の輪を広げて参りたいと思いますので、宜しくお願い致します。



新規会員紹介

令和三年十一月十三日以降入会の方々です。(敬称略)

永年会員

山根耕太郎 防府市八王子

法人会員

(有)種村強建築設計

安村商事(株) 東京都中央区
防府市宮市町

特別会員

村上恵子 宇部市東須恵
岡本卓磨 防府市八王子

高木謙治

山陽小野田市

家族会員

齋藤裕子 東京都台東区
山本和夫 周南市月丘町

栗栖 功

防府市沖今宿
廣島市安佐北区

大塚啓二

防府市田島
防府市浜方

小池俊二

防府市原市
防府市新田

柴崎博之

防府市原市
防府市新田

部谷豊子

防府市原市
防府市新田

山田 勝

防府市原市
防府市新田

畔上珠郎

防府市原市
防府市新田

関口和紀

防府市原市
防府市新田

個人会員

北沢 崇 東京都八王子市

羽釜修子

防府市原市
防府市新田

柳 智子

防府市原市
防府市新田

津田邦夫

防府市原市
防府市新田

岡崎俊彦

防府市原市
防府市新田

安井淳二

防府市原市
防府市新田

原田七海

防府市原市
防府市新田

曾根田満徳

防府市原市
防府市新田

温品義仁

防府市原市
防府市新田

※崇敬会入会をご希望の方は、同封の入会案内を御覧の上、お申込み頂きますようお願い申し上げます。

～崇敬会東京支部設立のご案内～

支部設立総会

日時 令和4年10月15日 土曜日 午後2時より

場所 ハリウッドビューティープラザ 港区六本木六丁目 六本木ヒルズ内

会費 5,000円

東京支部事務局 メイ・ウシヤマ学園内 担当 岡崎俊彦(山口県出身)



▲六本木ヒルズにある「ハリウッド・ビューティープラザ」

設立総会ではまず設立奉告祭並びに防府天満宮神職巫女による「天神の舞」を奉納し、総会の後は講演会と交流会を開催する予定です。参加については防府天満宮崇敬会会員(家族含む)または崇敬会に入会を希望される方(当日申し込み可)とさせて頂きます。

ハリウッドビューティープラザ内、メイ・ウシヤマ学園副理事長のジエニー牛山女史は防府市出身で天満宮と親交のあったハリウッド化粧品創始者の(故)メイ牛山女史の長女というご縁で崇敬会東京支部の事務局をお引受け頂きました。

お誘い合わせの上ご参加下さいませようご案内申し上げます。

**東京支部設立に対し
応援メッセージを頂いて
おりますのでご紹介します。**

●不思議の郷の防府天満宮

他所の三天神様は何百万の市民が支えています。ここはたったの十一万人、だけど日本唯一、佐波郡パワー。「サ」は神「バ」は場何か良い事ありそうないつも一緒の天満宮
東京都中央区 浅田宗良

●高校を卒業し上京して 五十年以上が過ぎました。

天満宮と言えば、まったく前が見えない人ゴミの中、父や母や祖母に手を引かれ、参道を歩いたことを思い出します。手を離せば間違いなく迷子になりました。私の腰にはオモチャの刀が差してありました。
昭和二十年代後半から三十年代前半頃の景色をもう一度観てみたいと思います。
写真がないものでしょうか!?
絵本作家 田頭よしただ

●防府天満宮崇敬会東京支部に期待するもの

これまで「神」や「仏」を祀る神社仏閣には「信じる者は救われる」「苦しい時の神頼み」的な発想で、慣例に従って年に数度参拝していましたが、この度縁あって崇敬会東京支部設立のご案内を頂きましたので、これを機に第二の人生を家族ともども健康かつ安らかな気持ちで過ごせれば幸いだと思入会しました。会員になれば特典もあるようですが、今後は当会の祭事等に極力参加し東京支部が発展出来れば幸いに存じます。

千葉県花見川区 小田憲和
有難うございました。

「このふるさと」 防府天満宮

その心は天神講から崇敬会へ受け継がれ

はじめに「このふるさと」

防府天満宮は創建以来、多くの方々により御崇敬賜りました。時の有力者はその誠心を奉納物という形で表しました。源平戦乱の世、一一七二年周防国の目代は後白河上皇の弥栄を願い「金銅宝塔」(重文)を寄進し、さらに鎌倉時代二三一年には国司が防府天満宮創建の由緒を記した「松崎天神縁起絵巻」(重文)を奉納しました。一方同時に一般庶民からの崇敬も篤く、一三三〇年の古文書にはすでに御神幸祭に奉仕する大行司そして小行司の名前が記されており、これらの歴史は防府天満宮の崇敬の大きさと裾野の広さを物語っています。

人々はそのような防府天満宮を「このふるさと」として親しまいました。そして江戸時代に入ると農耕を中心に営む人たちは地縁社会の中で寄り合いを形成し、学問の神であり農業の神でもある防府天満宮を「このふるさと」とする集団「天神講」を組織し、生活の中にある苦楽も天満宮と共に歩んできました。

全国の天満宮で最古の奉納物
「金銅宝塔(1172年)」



▲1330年の古文書「天満宮十月会諸役差定状」
大小行事(司)の名前が記されている

「天神講」ってなんですか？

江戸時代も文化文政期になると都市部では町人文化が栄え、人形浄瑠璃や歌舞伎また浮世絵などの文化が花開きました。農村にも貨幣経済が浸透し始め、封建社会の中にもゆとりが生まれてきました。そんな中、「天神講」は厳しい農作業の合間の情報交換や飲食を共にする懇親の場として形成されました。

その時代全国で伊勢講や金毘羅講といったそれぞれの信仰に基づいた講が発達し、これらの講員がそれぞれ崇敬する神社に(代表者が)参拝する旅行が流行りました。同様に「天神講」の人達も「このふるさと」防府天満宮の大祭には必ず参拝し、参加できなかった人のためにお札を持ち帰るようになりました。

そのような防府天満宮の「天神講」の分布の範囲は防長二州のみならず石州(鳥根県西部)や芸州(広島県西部)にまでに及び、その数は三百とも言われています。特筆すべきは、防府天満宮の「天神講」の人達は農業に限らず、漁業や煙草の生産が自分の生業であれば大漁祈願や畑の豊作祈願も行っていました。防府天満宮の独自の「天神講」の広がりとは多様な天神信仰を見てとることもできません。江戸時代後期に発生したといわれる御神幸祭裸坊とも無関係とは考えられず、裸坊は「天神講」の人たちが大祭に直接参加するための知恵の一つだったのではないのでしょうか。

「天神講」って 具体的にどんな活動を していたのですか？

活動に関する細かい記録は殆ど残っていませんが、その中で富海石原地区の天神講の「銭馬参り」の風習や各地域に残る天神講による「天満宮」碑の存在は興味深いものがあります。(写真参照)

ぜにうま 銭馬参り (富海石原村の天神講)

天満宮大祭当日、銭馬(金馬)を曳いて天満宮へ参拝した。年一回のこの行事で講中は固く結ばれていた。(昭和初期の石原西条の古老の話)

銭馬参りとは選ばれた馬を川で洗い清めた後、馬の体に鈴や一文銭を垂らし、さらに背中には梅花を飾りつけた鞍箱に祝餅を乗せ「奉寄進松崎神社」の札を置き、村の若者が村を代表して天満宮大祭に参拝する習わしのこと。馬が歩くと一文銭は賑やかに振れ合い鈴が賑やかに鳴ったという。代参の出發前と帰還後には地下の者たちによって「出立の杯」と直会の宴が盛大に催された。



◀鞍箱

▲昭和二年銭馬参りの出立

現在も「天神講」は活動されていますか？

このように天神講の活動は講員の生活の中で大きな楽しみでしたが、明治維新よりその性格は変貌しました。維新による王政復古、廃仏毀釈などの措置により、それまで神社の所領であった土地は政府に召上げられ(上地)、寺は敗走し坊主と神官の対立も激化、神社は荒廃してしまいました。政府は神国としての規律を強めるため、天神講にさえも規律を求め官製の「天神講規則」を作るに至りました。しかし、天神講の人達は柔軟に捉え、防府天満宮への信仰は変わることなく天神講としての活動は続けられました。そして明治時代後半には国も安定し、明治三十五年防府天満宮では御神忌千年大祭を迎え、天神講もすっかり活気を取り戻し、大正から昭和初期には最高潮を迎えました。

しかし、戦後の個人主義や経済の豊かさの陰で、それまで培ってきた地縁という絆や神に感謝するという日本人の心は薄れてしまいました。好きな時に好きなところへ行き、好きなものを食べられる日常を手に入れ、時代と共に今では天神講も数えるほどになっしまいました。



▲天満宮碑(市内国分寺町院内)

天満宮碑 (天満宮と彫り込まれた石燈籠)

天神講が結成されたことを記念して建立されたものを記念して建立されたもの。大きさはどれも約二メートル程度で建立年月日が記されている。現在でも防府市内外に残る。

では、「ごころのふるさと」は消えてしまったのでしょうか？

天神講という組織は形の上ではほとんど消滅してしまいましたが、防府天満宮を「ごころのふるさと」として崇敬するごころは、人々から消えることはありません。個人や家族単位でその絆を保ち続けています。そのお蔭で現在も天神講の分布した地域を中心に年間百五十万人の方にご参拝頂いています。その意味でも「ごころのふるさと」は先人たちにより天神講が残してくれた目に見えない偉大な財産といえましょう。

おわりに

防府天満宮崇敬会 東京支部の設立


そのように崇敬頂いている方々のため、もつと身近に「ごころのふるさと」防府天満宮を感じて頂けるよう、平成十四年御神忌千百年大祭を記念して防府天満宮崇敬会を設立致しました。そしてこの度、令和九年御神忌千二百二十五年大祭を迎えるにあたり、防府から遠く離れた方々にも「ごころのふるさと」を享受して頂けるよう崇敬会東京支部を設立することになりました。ここに天神講に始まる防府天満宮への信仰は崇敬会に受け継がれ、さらに今般、東京支部を設立することにより「ごころのふるさと」の輪がさらに大きくなることを私たちは期待しています。

防府天満宮 末社の神々

～合祀の変遷～



愛宕社

松社→本殿裏手)
内側の表参道両脇
では御田植神事が
なったことにより若
齋行されている。
は道真公の正室)
と記述。
は男女のシンボル
ち、安産を願う絵
勤め、
た)
)と記述。

松社と思われるお社

<p>御祭神：軻遇突智 <small>かぐつち</small> 伊弉册尊 <small>いざなぎのみこと</small> 事代主命 <small>ことしろぬしのみこと</small> 鎮座地：御館(前小路北側)→前小路正定寺境内→防府天満宮境内</p>		
<p>豊臣秀吉が朝鮮御出陣の節に御館(前小路北側)に勧進<small>かんじん</small>。不思議なお告げにより2度社殿の火災を免れた後、正定寺(前小路)境内へ移された。寺内ではあったが公の責任者は天満宮神職で神事は神職僧侶それぞれが齋行する神仏習合の神社であった。明治2年に正定寺が中市の定念寺<small>じょうねんじ</small>と合併したため天満宮へ移築。その後は毎年御神幸祭が齋行され、現在でも前小路自治会主催、高砂自治会協力の下で神事、神幸が齋行されている。</p>		
愛宕社に合祀された御祭神とその変遷	<p>火産靈神 <small>ほむすびのかみ</small> (一説には奥津日子神 <small>おくつひこのかみ</small> 奥津比売神も祀る)</p>	<p>火産靈神社(旧名：荒神社) 旧鎮座地：鋳物師萬福寺境内→愛宕社 創建由来不明。江戸時代、防府天満宮神職鈴木上総の預かり。</p>
	<p>事代主神 (一説による) <small>ことしろぬしのかみ</small></p>	<p>惠美須神社 旧鎮座地：赤間(推定)→愛宕社 創建由来不明。江戸時代、防府天満宮神職鈴木上総の預かり。</p>
	<p>素戔嗚命 <small>すさのおのみこと</small> (一説には大己貴命も祀る) <small>おきなむちのみこと</small></p>	<p>追戸神社(旧名：荒神社) 旧鎮座地：上迫戸(防府天満宮裏石段下)→愛宕社 現在7月上旬(江戸時代は6月28日)に追戸祇園社祭として氏子が集まる中、元の鎮座地において防府天満宮神職により神事を齋行。いつ頃から追戸祇園社の名と呼ばれるようになったかは不明だが、幕末まで天満宮境内に素戔嗚尊を祀る祇園社があり今後一考の余地がある。</p>
	<p>大歳神 <small>おおとしのかみ</small> 火産靈神 <small>ほむすびのかみ</small> (一説によると御年神・若宮神・奥津日子神・奥津比売神・柿本人麿も祀る)</p>	<p>畑山神社(旧名：大歳・荒神) 旧鎮座地：東佐波令畑村福昌寺境内→愛宕社 明治15年に防府天満宮が破損した社殿を修復しており、他の3社と違い直接管理していたことが分かる。合祀の時点で既に例祭日が不明になっており8月の八朔の日と推測して齋行することを決める。ただ「旧6月間という説もあるがどちらが正しいかどうかは確認ができない」との当時の神職の記述が残っている。合祀後も畑山社祭と呼ばれ毎年愛宕社の前で畑村の氏子が集まり祭典が齋行されていた。</p>

はじめに

本殿裏手には東から「愛宕社」・「老松社」・若松社」・「須賀社」という3社の末社が鎮座しています。この度は防府天満宮の末社に祀られている神々と祀られるに至った変遷をご紹介します。

神社の統廃合

明治初期、神仏分離の考えから寺にある神社が合祀と言う形で移築・廃止されます。そして明治三十九年、政府は大々的な神社の統合を推奨し、これを受けた山口県は、①・②を対象に神社の統廃合を進めました。

①無格社。

②村社以上で由緒が正確でない、同一祭神を祀る社が町村内に二社以上ある。氏子が一〇〇戸もしくは信徒が五〇〇人に満たない神社。

これにより防府市内においては、無格社八十二社が二十七社の有格社となりました。(県内では二、一四六の無格社が統合し、四四二の有格社となる)この時近郷六社の無格社が天満宮境内の末社へ合祀されました。(上の表の通り)

しかしこの布告に納得できない地元は、書類上のみ統廃合したと見せかけたり、「統廃合で参拝が遠隔地になる」と正面きって反対し現状維持を勝ち取った場合もあり、当時の人々の郷土、氏神様を愛する心が伺えます。

統廃合より三十年後、富海の人が当時を回想し、「いくら由緒が定かでないとはいえ、神社を中心に祭りを行い集落の懇親を自然に深めていった風俗がこれにより絶えてしまった。これまで各集落の神社の前で盆踊りをしていたが有害だと禁止



須賀社

御祭神：素戔嗚命すさのおのみこと 鎮座地：防府天満宮境内

創建不明(初見は明治4年)。元禄4年(1691)に「大専坊管理の末社に荒神社(祇園社)牛頭天王」とあり、明治の神仏分離により呼称が神式に改められ防府天満宮の管理に置かれた可能性がある。近年まで宮大工の棟梁が自身で技術の向上と安全を祈る工匠祭こうしやうまつりが6月30日に行われていた。子供の夜泣き封じにご利益があるとされ人形を社に奉納する信仰がある。現在では子供の成長を願い初宮詣・百日詣の絵馬が多く奉納されている。

須賀社に合祀された御祭神とその変遷

宇迦之御魂うかのみたま
伊弉册命いざなのみこと
品陀和気命ほんだわけのみこと(応神天皇)
櫛御気野命くしのみけのみこと

正勝吾勝勝速日天之恩穗耳命まさかつあかつかはやひあめのおしほみのみこと
天之善卑能命あめのほひのみこと
天津日子根命あまつひこねのみこと
活津日子根命いくつひこねのみこと
熊野久須毘命くまのくすびのみこと
多紀理毘売命たきりびめのみこと
市寸島比売命いちしまびめのみこと
多岐都比売命たきつひめのみこと

(天照大神と素戔嗚尊が誓約した際に出現した5男3女の神様)

熊野神社 旧鎮座地：国分寺境内→右田上河源→須賀社
明治44年、宇迦之御魂を知事の認可のもと末社の愛宕社へ移し、他3柱の神を須賀社へ分けて合祀しました。しかし後にそれはおかしいということで認可は取り消され宇迦之御魂は愛宕社より須賀社へ移された。

八柱社(旧名：八王子社) 旧鎮座地：今市八王子→須賀社
「防長風土注進案」によると宝暦7年(1758)の棟札に延長年中(923～931)建立で御神幸は八王子の森と記されている。当初は西向であったが主要道の変化に伴い文政年中(1818～1830)北向き(今市町の主要道向き)に建て直された。神事は天満宮神職が斎行し、合祀後も西御末社祭として須賀社にて合同の神事が行われた。大正3年には今市の人々の願いにより旧例祭日に単独で祭典を行い、大正5年より7月24日25日を御神幸祭日として斎行。現在は旧名の八王子様の愛称で親しまれ地元の人達により御神幸祭が行われている。

老松社・若松社

鎮座地：防府天満宮表参道(東側老松社・西側若松社)

現在は1つの社だが、昔は防府天満宮鳥居より西に向かい合って鎮座していた。古くから老松社・若松社が毎年6月30日に斎行。2社が合併し1つの社となった。老松社のお祭りは、御田植神事に合わせて一緒に斎行する。

老松社御祭神：島田忠臣しまだのただおみ(道真公の学問の師、姉)
古くから本社第一の末社と呼ばれ相殿の神あり生成発展のご利益があるとされ、社の両脇に立石をを表した陰陽石(通称：ジジ石・ババ石)が立馬が社殿に奉納されている。

若松社御祭神：武部左衛門たけべさへもん
(菅原道真公の別荘があった園部の地で代官を道真公左遷の際、八男菅原慶能を預かり育てた)
古くから本社第二の末社と呼ばれ相殿の神あり



▲重文「松崎天神縁起絵巻(応長元年・1311)」に老松社・若松社が描かれている。

現代にも続く篤い思い

統廃合され、地元の神社が無くなったといっても信仰までが全て失われたわけではありません。迫戸社・八柱社の神事は現在でも元の鎮座地で地元の人たちにより斎行されています。

その八柱社が須賀社に合祀された時代に生まれた今市町に住む河村氏の回想録では、「社殿には寺子屋のように子供達が集まり、大正や昭和のはじめはお芝居や屋台で大変賑やかだった。境内の森は昼も暗くムササビやふくろうがおり、直径一メートルくらいの木が生い茂っていた。」と語っています。

神さまが移られた後も建物や境内跡地は子どもたちの生活の一部であり、祭りも盛況であったことが伺えます。

終わりに

合祀後一〇〇年以上の歳月を経ても脈々と受け継がれた地元の人達の厚い敬神の思い、その思いは子どもたちに受け継がれ、神輿の神幸をずる姿に伝統の深さを在り在りと感じることができます。

「兄弟わっしょい」 防府の未来を目指して

防府商工会議所

会頭 羽嶋秀一



●会頭就任おめでとうございます。この度はスローガンを「兄弟わっしょい」防府の未来を目指して」とされました。どのような思いが込められているのでしょうか？

ご存知の様に「兄弟わっしょい」とは兄弟の様にお祭りを盛り上げていこうという裸坊祭の掛け声です。防府商工会議所・議員・会員が一丸となり、更に国・山口県・防府市・企業と連携して盛り上げていきたいという強い思いを込めました。

●文字通り防府市がワンチームとなって向上していこうということですね。商工会議所としては、地域の商工業の経営問題など重要な仕事があると思えますが、その他に町づくりという側面もあるのかと思います。

常々防府駅周辺から天満宮まで町並みに統一感がほしいと思っています。観光コンベンション協会

会長の時には天満宮周辺は「大正ロマン」でデザインを統一し、交流人口の増加を計りたいと思っています。

●観光客へのおもてなしの観点からいうと防府の街は交差点の名前や道路の名前もよく分からないという指摘があります。

商工会議所の「まちづくり戦略会議」で道路のネーミングについて協議をしています。この夏改築される丸久アルク防府店前に道路が開通しますが、その通りをはじめ天満宮周辺の道路に名前を付けていくよう提案したいと思っています。

●親しまれる名前になるといいですね。交流人口が増えるという事は防府の町や産業の繁栄に直結することだと思えます。交流人口増加の秘策はあるのでしょうか？

春夏秋冬に「幸せますフェスタ」というイベントを開催しています。更に先程も申し上げました統一感のある町並み、宮司もおっしゃったように駅を降りて「ここが好き」と感じて頂ける町並みの形成に力を入れなければならないと思っています。そうすることで関係人口、言い換えれば「防府のファン」を増やし、防府のいいところをどんどん発信していくことが、非常に重要ではないかと思っています。その積み重ねがその先の商工業の発展に繋がると考えています。

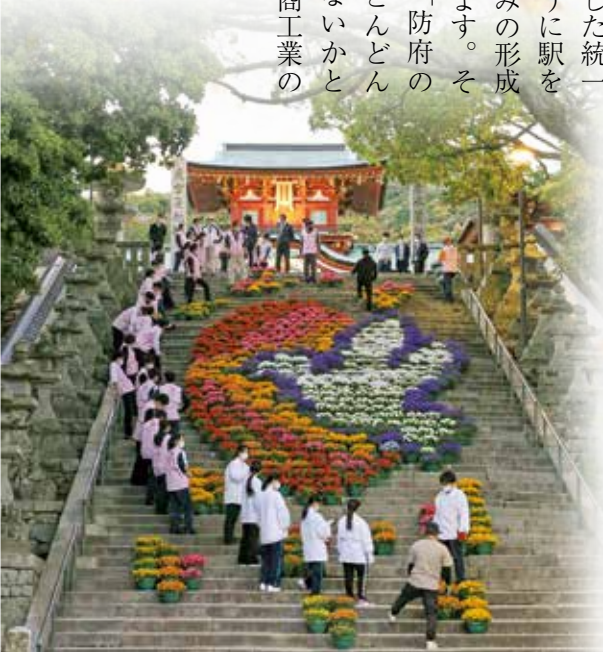
●ファンになって頂く為、天満宮行事との協力体制も今後益々強くして頂ければと思っています。

もちろんです。イベントごとは目的を明確にして開催するべきと考えています。交流人口の増加や防府の知名度向上の為には、天満宮のお祭りごとは重要ですし、集客力も大きいので、「兄弟わっしょい」天満宮と一緒にやって行くことがファン獲得の近道ではないかと考えています。

●スローガンは「兄弟わっしょい」。防府天満宮にとって御神幸祭裸坊祭は最も大切なお祭りですから、天満宮の盛り上がりと共に商工会議所の目的が達成されるように願っています。どうぞ宜しくお願い致します。有難うございました。

〈羽嶋秀一プロフィール〉

令和四年四月一日に第三十四期会頭就任、防府ロータリークラブ会長や防府観光コンベンション協会会長など歴任、樹木医、防府天満宮責任役員、(株)羽嶋松翠園会長、現在八十一才



▲防府天満宮大石段花回廊は平成25年より防府商工会議所を中心に組織する「春の幸せますフェスタ実行委員会」（防府市、観光コンベンション協会、山口県立農業大学校、山口大学、市内中学校や防府天満宮などにて組織）にて実施されている。（写真は令和4年実行委員会による花回廊設置風景）

TOPICS

天満宮に「火の鳥」現る!?



1月24日の夕暮れ時、ご社殿の頭上に「火の鳥」が美しい翼を広げていました。

「火の鳥」といえばマンガ家“手塚治虫”を思い浮かべます。彼の描く「火の鳥」は永遠の生命の象徴であり、その羽根も例えば、撫でるだけで傷が回復したり、病気が治ったりという超能力を持っています(手塚治虫初の単行本プロローグの一部より)。

「火の鳥」は永遠の生命を持つ不死鳥とも呼ばれ、時間と時空を超越した存在で分身もできるという。

ひょっとしてあの日の「火の鳥」は天神様の分身では…!?

◀巻雲(けんうん) 上空の風が強い時期に現れる冬雲

ひたぶる

権禰宜 村松大樹

常々お盆には帰省してお墓参りをしたいと思っているが、なかなか実現できていない。お盆になると、幼い頃に毎年父とお墓参りしたことを今でも思い出す。

お盆は、日本古来の祖霊信仰でその行事の内容や風習は地方によって様々である。お盆の頃にはニュースで全国各地のお盆行事の様子が伝えられ、その度に自分のお盆の記憶が甦る。私の故郷では、お盆初日の

朝早く提灯を持ち、火を灯さずお墓に向い、そこで灯した火を提灯に移し持って帰る。そして最終日の夕刻、その火をお墓に戻しにお参りするといった風習で、幼い頃の懐かしい思い出である。お盆は、様々な行事や風習で祖先への繋がりを強くもたらしてくれる素晴らしい行事だと思う。幼い頃、父が教えてくれた故郷のお盆行事。今年父と一緒に私が我が子に伝えたいと思っている。

ご結婚おめでとう

お二人の末永いお幸せをお祈り致します

令和4年 (神社奉式分/敬称略)	2月11日	林 忠佑・美果
3月20日	高見 大介・小百合	
3月21日	小田 賢壮・真代	
3月26日	渡辺 和也・利奈	
4月2日	眞木 大輔・由佳里	
4月3日	久保田 涼介・彩貴	
4月10日	クレキ アイデン・紗弓	
4月10日	江端 希之・美子	
4月10日	國貞 直也・真帆	
4月24日	中村 圭希・桜花	
5月8日	木村 重雄・佐智	
5月30日	桐川 奨平・真子	
5月30日	津守 裕之・康子	
5月30日	津川 武雄・美絵	
5月20日	山根 大生・実加	
5月20日	秋重 昇平・理沙	

※神前結婚式のお申込みは随時受付けておりますので、社務所へお問い合わせ下さい。(TEL0835-23-7700)

表参道 リニューアルオープン! 天とて屋

長年親しまれた「天とて屋かふえ」は今春新たに「天とて屋「間鍋竹土のうつつわを愉しむカフェギャラリ」」として、また二階には間鍋夫人によるリラクゼーションサロン『てもみサロンHINATA』がオープンしました。一階のギャラリーは自身の器と共に夫人手作りのお菓子を楽しんで頂くカフェになっています。ご参拝の折にぜひお立ち寄り下さい。



1階
営業時間：12時～15時
定休日：水、木曜日(祝日は営業)
うつつわの土は山口県内で採土、
釉薬も独自で創作し、
こだわりの作品です!



2階
営業時間：完全予約制
完全個室でもみほぐし&ストレッチ、
リンパオイルトリートメント、足ツボの
メニューがあり、心と身体を労る時間と
空間をご提供!

節分祭牛替神事を齋行。

県内での新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の発令を受け、歳男歳女三十三名の「豆まき」は、残念ながら昨年同様手渡しによる「豆わかち」となりました。



▲「生きた牛」が当たった中村幹也氏(防府市南松崎町)。本年の御神幸祭「神牛役」としてご奉仕頂きます。

牛替神事発展会議を開催。

牛替神事は節分祭に協賛するため明治四十四年に始まった行事で、今年で一〇一回目を迎えました。「生きた牛」が当たるといふ全国でも珍しい神事をもっと広めたいとの思いから「節分祭といえは防府天満宮の牛替神事」と言われるような行事を目指し、役員総代から三回に亘りご意見を伺いました。会議では神事発展のみならず地域振興のため、地元企業との更なる協力を得ることやSNSを利用した頒布広報といった具体的な施策が話し合われました。

日誌抄

(令和四年一月〜五月)

毎月1日、15日、25日は月次祭
 毎月1日は朔日詣り(朝粥念)、毎月25日は天神市(縁日)
 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止の為※中止 ※影響関連事項
 ※毎月25日の月次茶会は花展を除き全て中止、崇敬会研修旅行、神道家まほろば会研修旅行

- 1月1日 歳旦祭、※梅茶接待、天神おんな神輿写真展
- 1日 客殿改修竣工し新受付所にて祈願受付を開始
- 1〜3日 書き初め会
- 4日〜8日 ※初詣企業参拝を参集殿神殿にて齋行
- 5日 新始式
- 7日 七草粥の会(※於参集殿神殿)
- 8日 梅開花宣言、※県内の一部にまん延防止措置発令
- 10日 弓始式
- 10日 貞宮遙拝式
- 12日 米子鬼太郎空港受験合格祈願大総馬設置
- 13日 鳥取砂丘コナン空港受験合格祈願大総馬設置
- 16日 職員三班編成による奉仕体制(三回目)
- 23日 牛替神事奉仕抽籤児童説明会
- 25日 新年役員会
- 28日 牛替え神報新聞折込
- 29日〜30日 節分祭福豆頒布総代奉仕
- 2月1日 ※朝粥会
- 2〜3日 節分祭児童もちまき
- 3日 節分祭限定朱印頒布
- 3日 歳男歳女開運招福豆まき並豆わかち奉仕
- (※豆撒き)
- 4〜10日 牛替神事福運者当籤番号券景品引換
- 6日 第46回防府お針祭(※神事のみ齋行)
- 10日 牛替神事当籤者神牛引き渡し式
- 11日 紀元祭、人形感謝祭人形受付開始(28日まで)
- 16日 出世梅奉製作業総代奉仕
- 20日〜3月6日 第十七回梅まつり
- 期間中間鍋竹土作陶展、平井佳世布小もの作品展、手作りアクセサリーO.T.R.アナタニハナヲ、池坊防府支部奉納生花展、櫻園山城屋茶舗京の陶磁器展、梅まつり限定朱印頒布
- (※敬神婦人会甘酒接待、山縣本店梅酒試飲会、梅まつり茶会、文化講演会、全国陶器市、脇本順子作陶展、琴演奏会)
- 20日 梅まつり始祭稚児舞紅わらべ奉納、出世梅配布
- 21日 職員三班編成による奉仕体制を解除
- 22日 神社庁巡回祭典後講話研修会防府支部引受け(於参集殿)
- 23日 総代研修旅行26名参加(平生町沼八幡宮正式参拝)
- 26日 梅木奉納奉告祭深野道明様
- 27日 梅花祭稚児舞紅わらべ奉納、出世梅配布
- 3月1日 人形感謝祭
- 1〜5日 人形里親探し

天神様の冬から春

天神様から「幸せます」

※幸せますは山口の方言で「ありがたい」とか「嬉しく思う」との意味があります。

奉納品

ご奉納ありがとうございました。

- 1月29日 自家栽培野菜一箱 高川学園サッカー部様
- 2月17日 献木 梅木一本 深野道明様
- 3月16日 災害用備蓄水(500ml)50ケース ベル商事様
- 4月1日 米三〇キロ (有)KOU 稲葉豊美様
- 4月26日 神楽笛 一管 福山順様

境内清掃奉仕

ご奉仕ありがとうございました。

- 3月3日 松崎小学校六年生
- 4月8日 マツダ(株)防府工場新入社員66名様
- 3月31日他 庭園文化研究会様

新任のご紹介

(敬称略)

- 責任役員 田中康男 三月一日付
- 山田拓男 四月十三日付
- 阿部孝昭 〃
- 田戸哲二 〃
- 江田幹男 〃
- 伊藤輝雄 〃
- 久保浩通 四月十二日付
- 氏子総代 〃

職員人事(新入巫女)

(四月一日付)



後藤ちえり (防府市出身)



大田夢華 (防府市出身)



青木祐奈 (周南市出身)

宜しくお願ひ致します

防府天満宮社家
 作曲家鈴木淳氏逝去(享年八十八歳)

心からご冥福をお祈り申し上げます。

令和4年 夏・秋 これからの祭事行事

六月三十日(木)

十三時〜禊除け祈願祭

受付場所 香殿 初穂料 三千元より

十四時〜御田植祭

並びに輪くぐり神事

十六時〜夏越大祓

七月一日(金)〜七日(木)

七夕まつり

※同封の短冊にお願いの事を書いてご奉納ください。神職、巫女が竹籠に結び願いが叶うよう祈念します。

祭事予定

一日〜七日 回廊内笹飾り、光の斎庭

二日 シヤボン玉パフォーマンス「折泡」

七夕茶会他

三日 筆まつり・七夕書道展表彰式

七夕祈願祭 祈願料三、〇〇〇円

コロナウイルス終息を祈り

「国家安泰祈願祭」



▲光の斎庭(傘玉)・折泡-ki-bou-



▲輪くぐり神事
※同封の案内状をご覧ください

十月九日(日)

十月第二日曜日

花神子社参式

大行司・小行司役が御神幸祭の無事斎行を祈る

大行司・小行司役が醸した一夜御酒を花神子が

奉獻する社参の式であり、約五〇〇名にも及ぶ優

美な時代行列が本陣から社殿まで肅々と進みま

す。当日は午後二時に防府駅前を出発。愛らしい

稚児達が花駕籠、御所車に乗り、大名行列を思わ

せる奴・長持などお供に従って行列を組み、本陣

から天満宮までの約一、八kmを社参します。



▲花神子(中央)と脇乗

十一月二十六日(土)

十一月第四土曜日

御神幸祭(裸坊祭)

報賽祭(天神おんな神輿奉納)

普公に「無実の知らせ」をお伝えし

御心をお慰めする壮大なお祭り

寛弘元年(一〇〇四)十月十五日、

一条天皇の勅使が防府に遣わされ

勅使降祭(お御霊を慰める祭典)が斎行され、初

めて天皇から「無実の罪」が奏上されたのであり

ました。御神幸祭はこの勅使降祭を起源

とし、その時以来「無実の知らせ」を伝えるお祭りとして

連綿と受け継がれ、防府の天神様にとって崇敬の源となる

最も重要なお祭りです。



▲土曜日の男祭



▲日曜日の女祭

八月三日(水)〜五日(金)

御誕生辰祭

御祭神「菅原道真公」のお誕生日をお祝いするお祭り

祭事行事予定 三日〜五日 万灯の夕べ、

献灯・文芸ほんぼり・ビアガーデン他

三日 奉納清書展奉納奉告祭並表彰式、

万灯祭、剣道大会

四日 豊穰祈願祭、古武道大会、柔道

大会、夫婦円満祈願祭

五日 御誕生辰当日祭、少年剣道大会、

弓道大会、大花火大会

御誕生辰祭
献灯・文芸ほんぼり奉納のお願い

ご奉納頂ける方には要項をお送り致しますので、社務所にお問い合わせ下さい。申込用紙に必要事項をご記入の上、メールまたはご郵送でご返信願います。



▲献灯ほんぼり(一灯 3,000円)



▲大花火大会

十二月十二日・十三日・十四日・十五日・十六日 大祓詞浄書会(五回開催予定)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、祭事に付帯する行事は変更・延期・中止する場合がございます。皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

さかたり第109号
令和4年6月1日発行

発行所 防府天満宮社務所

〒747-0029山口県防府市松崎町14-1
TEL 0835-23-7700 FAX 0835-25-0001

防府天満宮

検索

facebook

twitter

Instagram

Times